



(1) 名古屋大学, (2) 東京大学地震研究所, (3) 同志社大学, (4) 広島大学名誉教授,
(5) 東洋大学

目 次

1:25,000活断層図 上町断層帯、有馬－高槻断層帯及び六甲・淡路島断層帯とその周辺 「大阪西北部 改訂版」解説書

1. 坊島断層	4
2. 五月丘断層	4
3. 南花屋敷断層	5
4. 六甲断層	5
5. 清荒神断層	6
6. 名塩断層	6
7. 野畑断層	7
8. 昆陽池断層	7
9. 伊丹断層	8
10. 塩尾寺断層	8
11. 芦屋断層	9
12. 甲陽断層	9
13. 西宮断層	10
14. 大月断層	11
15. 諏訪山断層	11
16. 渦森断層	12
17. 岡本断層	12
18. 箕面断層	13
19. 渋谷町北断層	13
20. 五月山断層	14
21. 豊中市北緑丘から同市城山町に至る断層	14
22. 小林断層	15
23. 岩倉山南方の断層	15
24. 五助橋断層	15
25. 桜川－住之江撓曲	16
引用文献	16
使用空中写真、使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等	18
付図（断層索引図・地形断面図）	20



令和5年調査図郭
 令和4年以前の調査図郭

1:25,000活断層図「大阪西北部 改訂版」作成位置図

1:25,000 活断層図 上町断層帯、有馬－高槻断層帯及び六甲・淡路島断層帯とその周辺 「大阪西北部 改訂版」解説書

本図には、上町断層帯、有馬－高槻断層帯、六甲・淡路島断層帯に含まれる断層が記載されており、地震調査研究推進本部地震調査委員会はそれぞれの断層帯を以下のように解説している。

- 上町断層帯

上町断層帯は、大阪府豊中市から大阪市を経て岸和田市に至る断層帯である。全体として長さは約 42 km で、ほぼ南北方向に延びており、断層帯の東側が西側に乗り上げる逆断層である。（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2004）

- 有馬－高槻断層帯

有馬－高槻断層帯は、神戸市北区の有馬温泉西方から高槻市街地北部に至る長さ約 55 km の断層帯である。並走、あるいは分岐する多くの断層線からなる。断層帯の東部（宝塚－高槻）では 2 つの断層が並走して地溝帯を形成していることが多い。有馬温泉付近以西（約 12 km）ではいくつかのやや不明確な活断層に分岐する。（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2001）本解説書では、有馬－高槻構造線活断層帯として表記している。

- 六甲・淡路島断層帯

六甲・淡路島断層帯は、大阪府箕面市から兵庫県西宮市、神戸市などを経て淡路島北部に至る六甲・淡路島断層帯主部と淡路島中部の洲本市から南あわじ市に至る先山断層帯からなる。

六甲・淡路島断層帯主部は、断層の分布形態や過去の活動時期の違いなどから、長さ約 71 km の六甲山地南縁－淡路島東岸区間及び長さ約 23 km の淡路島西岸区間の 2 つに区分される。六甲・淡路島断層帯主部の全体の長さは約 71 km でほぼ北東－南西方向に延びる。このうち、六甲山地南縁－淡路島東岸区間では、右横ずれを主体とし、北西側が相対的に隆起する逆断層成分を伴う。一方、淡路島西岸区間では、右横ずれを主体とし、南東側が相対的に隆起する逆断層成分を伴う。

先山断層帯は、長さが約 12 km で、北西側が相対的に隆起する逆断層である。（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2005）

本図には、有馬－高槻断層帯の一部を構成する 坊島断層^{ぼうのしま}、五月丘断層^{さつきがおか}、南花屋敷断層^{みなみはなやしき}、六甲断層^{ろっこう}、清荒神断層^{きよしこうじん}、名塩断層^{なじお}、六甲・淡路島断層帯の一部を構成する野畑断層^{のぼたけ}、昆陽池断層^{こやいけ}、伊丹断層^{いたみ}、塩尾寺断層^{えんべいじ}、芦屋断層^{あしや}、甲陽断層^{こうよう}、西宮断層^{にしのみや}、大月断層^{おおつき}、諏訪山断層^{すわやま}、渦森断層^{うずもり}、岡本断層^{おかもと}、とそれぞれの断層帯に含まれるその他の推定活断層及び上町断層帯を構成する推定活断層である桜川－住之江撓曲^{さくらがわ すみのえ}が記載されている。当地域における断層研究の歴史は長く、既に数多くの断層名が与えられているため、それらを尊重して各断層（区間）の概要と判読した根拠を記載するが、それぞれは長大な断層帯の一部であり、一体となって地震を起こすと考えられるこ

とには注意を要する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. 坊島断層^{ぼうのしま}

- ・走向 : 東北東－西南西
 - ・長さ : 約 6 km
 - ・断層種別 : 活断層（縦ずれ、傾動、一部に活撓曲を伴う）
- （※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

坊島断層は有馬－高槻構造線活断層帯の一部で、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「大阪東北部第 2 版」（中田ほか，2009）から箕面市^{はくのしま}白島付近を通り、池田市城山町付近に至る活断層である。本図では箕面市白島付近から、池田市城山町付近まで東北東－西南西に延びる長さ約 6 km が記載されており、南側隆起で右横ずれを伴っている。箕面市新稲^{にいな}付近では断層線に東方へ分岐する形状が見られる。

（2）判断根拠

中位段丘面および下位段丘面に北側落ちの低断層崖が認められ、隆起側（南側）の段丘面は撓曲している。また白島付近では下位段丘面を開析する浅い谷が数十メートル程度、右横ずれしている。なお、箕面市内で実施されたトレンチ調査（寒川・杉山，1996）によっても活動が確認されている。

2. 五月丘断層^{さつきがおか}

- ・走向 : 東北東－西南西
 - ・長さ : 約 8 km
 - ・断層種別 : 活断層（縦ずれ、一部に右横ずれ、活撓曲を伴う）
- （※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

五月丘断層は有馬－高槻構造線活断層帯の一部で、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「広根」（中田ほか，1996a）から箕面市箕面付近を通り、宝塚市平井付近に至る活断層である。本図では箕面市箕面付近から、宝塚市平井付近まで東北東－西南西方向に延びる長さ約 8 km の区間が記載されており、先述の坊島断層、後述の南花屋敷断層、清荒神断層との間にグラーベン（地溝；両側を断層崖で限られた溝状の凹地地形）を形成している。

（2）判断根拠

下位段丘面に北側隆起の低断層崖が認められ、断層の北側の地形面が一部で撓曲している。また、複数の河川に系統的な右ずれが認められる。また断層線は直線的であることから、断層面は北側傾斜の高角で横ずれを主体とする活動をしていると考えられる。また、猪名川^{いながわ}付近で実施された反射法地震探査（戸田ほか，1996）によっても活動が確認されている。

3. 南花屋敷断層^{みなみはなやしき}

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 活断層（活撓曲）

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

南花屋敷断層は、有馬－高槻構造線活断層帯の一部で、川西市栄根付近から宝塚市口谷東付近まで東北東－西南西方向に延びる長さ約 2 km の活断層である。先述の五月丘断層との間にグラーベンを形成する。本断層は、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2001）において花屋敷低地帯の一部として記載されている。本図では、それらを形成する南縁の断層として、基図である電子地形図 2 5 0 0 0 に記載されている地名から、南花屋敷断層とする。

（2）判断根拠

中位段丘面が北落ちに撓曲し、断層崖をもって沖積低地と接している。また、猪名川に近い付近の沖積低地にも比高の小さい低断層崖がある。トレンチ調査（寒川・杉山，1996）によっても活動が確認されている。

4. 六甲断層^{ろっこう}

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約 16 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ，右横ずれ，一部に活撓曲を伴う），推定活断層

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

六甲断層は有馬－高槻構造線活断層帯の一部で、川西市火打付近から神戸市北区有馬町の愛宕山付近を通り、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「神戸」（渡辺ほか，1996）に至る活断層である。

本図では、川西市火打付近から神戸市北区有馬町の愛宕山付近まで東北東－西南西に延びる長さ約 16 km の区間が記載されている。右横ずれを主体とし、花屋敷から宝塚市中山寺付近までは北上がり，これより以西では南上がりの変位をしている。

(2) 判断根拠

河川に系統的な右横ずれ屈曲を認め、中位段丘面および下位段丘面に撓曲を伴う低断層崖が確認される。トレンチ調査（兵庫県，2003）および露頭調査によっても活動が確認されている。

なお，本改訂版において以下の区間で活断層が新たに確認された。

4a：宝塚市平井付近で東方へ向けて分岐する形状を示す断層線が複数確認されている。また，複数の河川に右横ずれ屈曲が確認されている。全体としては概ね北側隆起を示すものの，逆向き隆起（南側隆起）の断層線もある。下位段丘面に変位が認められる箇所が多い。

4b：山地内に右横ずれを示す谷の屈曲が少なくとも2箇所確認される。活動年代が不明のため推定活断層として示している。

4c：山地内に右横ずれを示す谷の屈曲が系統的に確認される。活動年代が不明のため推定活断層として示している。

5. 清荒神断層

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約3 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ，一部に活撓曲を伴う）

(1) 概要

清荒神断層は有馬－高槻構造線活断層帯の一部で，宝塚市中筋付近から宝塚市川面付近まで東南東－西南西方向に延びる長さ約3 kmの活断層である。縦ずれが顕著で，北側に並走する六甲断層との間にグラーベンを形成する。

(2) 判断根拠

清荒神付近の中位段丘面に明瞭な北落ちの低断層崖が確認され，また東方の中山寺付近では沖積低地にも北落ちの低断層崖が認められる。断層線は西方へ分岐する形状を示し，阪急宝塚線近くでは中位段丘面に北上がりの撓曲も認められる。

6. 名塩断層

- ・走向 : 西北西－東南東
- ・長さ : 約5 km
- ・断層種別 : 活断層（左横ずれ）

(1) 概要

名塩断層は有馬－高槻構造線活断層帯の一部で、西宮市名塩南台東方から西宮市山口町下山口付近まで西北西－東南東に延びる長さ約5 kmの活断層であり、明瞭な左横ずれ変位を伴う。また、山地と低地の境界に位置し、南上がりの変位をしている可能性がある。

(2) 判断根拠

南側の山地から流下する複数の河川が極めて明瞭に左横ずれし、それらの河川間の地形にも明瞭な鞍部や傾斜変換線が続いている。六甲断層とは共役（一对の交差する断層で、ずれの方向が反対であるもの）の関係にあると理解される。

7. ^{のぼたけ}野畑断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約7 km
- ・断層種別 : 活断層（一部に縦ずれ、活撓曲、活褶曲を伴う）

(1) 概要

野畑断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、隣接する1:25,000都市圏活断層図「大阪東北部第2版」（中田ほか、2009）から箕面市西宿付近を通り、伊丹市下河原付近に至る活断層である。本図では、北東－南西に延びる約7 kmの区間が記載されており、一部に縦ずれの変位、活撓曲、活褶曲を伴う。なお、猪名川沿いで実施された反射法地震探査（戸田ほか、1996）によっても活動が確認されることから、断層はさらに西方へ延び、後述の昆陽池断層へ連続するものと推定される。

本断層は南西端付近で2条に分岐しており、北側の活断層は北落ち、南側の活断層は南落ちの変位を示している。

(2) 判断根拠

箕面市萱野～桜井周辺において中位段丘面に明瞭な北落ちの撓曲崖が確認され、一部では背斜変形を伴っている。このような変形はさらに西方へ続き、池田市石橋～住吉にかけて下位段丘面を変位させ、この変形は沖積低地に及ぶ可能性もある。

なお、本改訂版において以下の区間で活断層が新たに確認された。

7a：池田市石橋四丁目から伊丹市下河原にかけて下位段丘面に低断層崖が確認される。

8. ^{こやいけ}昆陽池断層

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約3 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ、一部に活撓曲を伴う）

(1) 概要

昆陽池断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、伊丹市北園付近から伊丹市西野付近まで東北東－西南西に延びる長さ約 3 km の活断層であり、縦ずれの変位、活撓曲を伴う。昆陽池を挟んで北側の活断層は南落ち、南側の活断層は北落ちであり、昆陽池周辺を陥没させている。反射法地震探査（兵庫県，1996・戸田ほか，1996）により、東方の野畑断層、西方の甲陽断層と連続するものと推定される。

本断層は、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）において昆陽池陥没帯と記載されているが、本図ではそれらを形成する断層について昆陽池断層とした。

(2) 判断根拠

昆陽池の北側の断層は、下位段丘面に撓曲を伴う低断層崖を形成している。断層線は昆陽池北縁のほか、その北方の伊丹市鴻池付近にも認められる。瑞ヶ池も昆陽池同様に断層の低下側に形成された可能性がある。また昆陽池南縁を限る北落ちの断層沿いでは下位段丘のほか中位段丘にも北落ちの断層崖を形成している。なお、北側の断層 2 ヶ所でトレンチ調査（兵庫県，1996）が行われ、活動が確認されている。

9. ^{いたみ}伊丹断層

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ，活撓曲）

(1) 概要

伊丹断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、伊丹市北本町付近から尼崎市西^{にしこや}昆陽付近まで東北東－西南西報告に延びる長さ約 3 km の活断層で、活撓曲を伴う南落ち変位をしている。昆陽池断層と同様に、東方は野畑断層、西方は後述する西宮断層に連続する可能性がある。

(2) 判断根拠

中位段丘および下位段丘面に幅 200～300m 程度のやや幅の広い撓曲が確認される。これに加えて低断層崖が存在するが、西方へ分岐する形状を示している。西昆陽付近で沖積低地にも変形が及んでいる可能性がある。

10. ^{えんべいじ}塩尾寺断層

- ・走向 : 南北
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ，活撓曲）

(1) 概要

塩尾寺断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、宝塚市月見山付近から宝塚市野上付近にまで南北方向に延びる長さ約2kmの活断層である。本断層は基本的に東落ちであるが、西に、主断層に並行する西落ちの断層を伴っている。

(2) 判断根拠

上位段丘面および中位段丘面が東落ちに撓曲変形するとともに、その隆起側において逆向き（西落ち）の断層変位も伴っている。

1 1. ^{あしや} 芦屋断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約7km
- ・断層種別 : 活断層（右横ずれ、一部に縦ずれを伴う）

(1) 概要

芦屋断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、西宮市甲山町付近から神戸市東灘区岡本付近まで北東－南西に延びる長さ約7kmの活断層である。本断層は並走する数条の活断層で構成され、全体に右横ずれの変位が顕著である。また西方の山地を隆起させる西上がりの変形を起こしていると考えられるが、段丘面の変形によってそのことが明確なのは芦屋市山芦屋町付近に限られる。

(2) 判断根拠

西方の山地域から流下する複数の河川に、系統的な右横ずれが確認される。また山芦屋町付近では下位段丘面に低断層崖が形成されている。

なお、本改訂版において以下の区間で活断層が新たに確認された。

11a: 西宮市^{けんだにちょう}剣谷町から神戸市東灘区森北町付近にかけて、河川屈曲が明瞭であり、活断層線が認定される。従来の芦屋断層の断層線とは北部において並走するがほぼ一連と考えられる。なお、断層線は西方において後述する岡本断層に収斂するため、岡本断層と一連のものと判断される。

1 2. ^{こうよう} 甲陽断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約7km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ、活撓曲、一部に右横ずれを伴う）、推定活断層

(1) 概要

甲陽断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、宝塚市^{にがわとかだい}仁川高台付近から神戸市東灘区森北

町付近まで北東－南西に延びる長さ約7kmの活断層である。南東側落ちの変位を示し、隆起側の地形面に撓曲変形を伴っている。また、顕著な横ずれを伴わないことから北西隆起の逆断層と考えられる。なお、芦屋市山手町付近において逆向き（北西落ち）の副次的な断層を伴い、東部の甲陽園東山町付近には右横ずれを示す河川屈曲もある。

（2）判断根拠

断層全長にわたって中位段丘および下位段丘面に南東落ち撓曲崖があり、累積的変位が認められる。断層が湾曲していることから断層面の傾斜はやや低角（断層面と水平面のなす角度が45°未満）の可能性がある。なお、北西側に並走する副次的断層のトレースは直線的で断層面が高角である可能性がある。

なお、本改訂版において以下の区間で活断層が新たに確認された。

12a：1:25,000都市圏活断層図「大阪西北部」（中田ほか，1996b）（以下「旧版」という）においては断層線の連続が途切れていたが、この箇所においては変位地形が連続すると判断された。

12b：新たに河川の屈曲が認められたため、断層線が延伸された。

13. ^{にしのみや}西宮断層

- ・走向　　：　北東－南西
- ・長さ　　：　約12km
- ・断層種別　：　活断層（縦ずれ，活撓曲，傾動），推定活断層

（1）概要

西宮断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、西宮市上甲東園^{かみこうとうえん}付近から芦屋市若宮町付近、芦屋市宮川町から神戸市東灘区深江本町および東灘区青木から御影本町まで、若干の不連続区間を挟んで北東－南西方向に延びる長さ約12kmの活断層（一部推定活断層を含む）である。中位段丘面が南東落ち撓曲し、隆起側に逆向き（北西落ち）の断層を伴っている。推定活断層区間においては沖積低地にも変位がある可能性がある。

本断層は、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）において西宮撓曲と記載されている。変動地形の特徴としては撓曲であるが、これをもたらした地下浅部の活断層の存在は明らかのため、本図では西宮断層とする。

（2）判断根拠

断層全長にわたり主に中位段丘に北西隆起の撓曲崖が認められる。断層線に湾曲が見られることから、やや低角の逆断層と推定される。

なお、さらに北東端付近（上甲東園付近）の西上がりの崖については、断層崖の可能性はあるが、明瞭な撓曲を伴わない。そのため、武庫川による浸食の影響で大きく後退

している可能性が高いため、推定活断層として表記した。

なお、本改訂版において以下の区間で活断層が新たに確認された。

13a: 芦屋市宮川町から神戸市東灘区深江本町までの区間において、沖積低地面に比高約 1 m 程度で南落ちの撓曲の可能性のある起伏が認められる（渡辺ほか，1997）。連続性がやや良好ではないため推定活断層として記載した。また、芦屋川に沿う反射法地震探査（遠藤ほか，1996）によって断層が確認されているため、推定活断層（地下）を示している。これは「旧版」においても記載されているが、断層がやや低角な逆断層のため、その位置は厳密に地表到達点ではない。今回の推定活断層線が地下の断層と多少ずれているように見えるが、むしろ同じものを捉えていると考えることも可能である。

13b: 東灘区青木から御影本町までの区間において、沖積低地面に南落ちの比高約 1 m 程度の起伏が認められ、上流側と下流側の地形勾配は同様であるため同一の地形面に現れた撓曲である可能性が高い。連続性が良好ではないため推定活断層として記載した。

1 4. ^{おおつき} 大月断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 4 km
- ・断層種別 : 活断層（右横ずれ）

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

大月断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、芦屋市の東おたふく山北方から神戸市東灘区渦森台付近を通り、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「神戸」（渡辺ほか，1996）に至る活断層である。本図には芦屋市の東おたふく山北方から、神戸市東灘区渦森台付近まで北東－南西方向に延びる長さ約 4 km の区間が記載されており、全体に右横ずれの変位を伴う。

（2）判断根拠

北西から南東に流下する五助谷をはじめとする複数の小河川が右横ずれしている。「旧版」においては推定活断層とされていたが、本改訂版においては複数の河川屈曲が系統的に認められたため、活断層として表記した。

1 5. ^{すわやま} 諏訪山断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 0.5 km

・断層種別 : 活断層 (右横ずれ)

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

諏訪山断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、神戸市東灘区住吉山手付近から同区渦森台付近を通り、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「神戸」(渡辺ほか, 1996)に至る活断層である。本図には、神戸市東灘区住吉山手付近から同区渦森台付近まで北東-南西方向に延びる長さ約 0.5 km の区間が記載されており、右横ずれの変位を伴う。

(2) 判断根拠

本図内においても明瞭な谷の右横ずれが確認される。しかしながら住吉山手より北東では鞍部地形の連続や谷の屈曲など活断層の明らかな証拠が見出されない。

16. ^{うずもり}渦森断層

・走向 : 北東-南西

・長さ : 約 3 km

・断層種別 : 活断層 (右横ずれ)

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

渦森断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、芦屋市の荒地山西方から神戸市東灘区鴨子ヶ原付近を通り、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「神戸」(渡辺ほか, 1996)に至る活断層である。本図には、芦屋市の荒地山西方から神戸市東灘区鴨子ヶ原付近まで北東-南西方向に延びる長さ約 3 km の区間が記載されており、右横ずれの変位を伴う。

(2) 判断根拠

北西から南東に流下する小河川に明瞭な右横ずれ屈曲が確認される。

17. ^{おかもと}岡本断層

・走向 : 東北東-西南西

・長さ : 約 4 km

・断層種別 : 活断層 (縦ずれ、一部に右横ずれ、活撓曲を伴う)

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

岡本断層は六甲・淡路島断層帯の一部で、神戸市東灘区本山北町付近から同区^{みかげやまて}御影山手付近を通り、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「神戸」(渡辺ほか, 1996)に至る活

断層である。本図には、神戸市東灘区本山北町付近から同区御影山手付近まで東北東－西南西に延びる長さ約 4 km の区間が記載されており、北側隆起の逆断層で、一部に右横ずれの変位を伴う。

(2) 判断根拠

山麓部に位置する下位段丘面に、隆起側に撓曲を伴う低断層崖が形成されている。断層線が湾曲していることからやや低角の逆断層である可能性がある。ただし東灘区岡本付近では、芦屋断層方面に分岐形状を示す右横ずれ断層があり、そのトレースは直線的であることから高角の断層と考えられる。なお東方では同区本山北町付近から甲陽断層に連続し、芦屋断層が北東へ分岐しており、岡本断層はこれらと一連の断層を成している。

その他の推定活断層としては、^{みのお}箕面断層、^{しぶたにちょう}渋谷町北断層、^{さつきやま}五月山断層、^{きたみどりがおか}豊中市北緑丘から同市^{しろやまちょう}城山町に至る断層、^{おぼやし}小林断層、^{いわくらやま}岩倉山南方の断層、^{ごすけぼし}五助橋断層、^{さくらがわ}桜川－^{すみのえ}住之江撓曲が記載されている。

18. ^{みのお}箕面断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 0.4 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

箕面市箕面付近から隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「広根」(中田ほか, 1996a) に至る、北東－南西方向に延びる長さ約 0.4 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

五月丘断層から東方へ分岐する形状を示し、本図幅内では明瞭ではないが小河川に右横ずれ屈曲している可能性がある。

19. ^{しぶたにちょう}渋谷町北断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

箕面市の^{ろっかやま}六個山南方に位置し、隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「広根」(中田ほか, 1996a) に至る、北東－南西方向に延びる長さ約 0.5 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

五月丘断層から東方へ分岐する形状を示し、本図内では明瞭ではないが小河川に右横ずれ屈曲している可能性がある。

2 0. ^{さつきやま}五月山断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

池田市五月丘付近から隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「広根」(中田ほか, 1996a) に至る、北東－南西方向に延びる長さ約 0.5km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

五月丘断層から東方へ分岐する形状を示し、本図幅内では明瞭ではないが小河川に右横ずれ屈曲している可能性がある。

2 1. ^{きたみどりがおか}豊中市北緑丘から同市^{しろやまちょう}城山町に至る断層

- ・走向 : 南北
- ・長さ : 約 5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

豊中市北緑丘付近から豊中市城山町付近に至る、南北方向に延びる長さ約 5 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

北部においては中位段丘面と下位段丘面、中部においては上位段丘面と中位段丘面の分布境界となっている。さらに南部においては、中位段丘面の分布高度が東部で高まっている。これらの高度不連続は千里丘陵西部の非対称背斜の西翼の基部に位置するため、

背斜構造の成長に関連した東側隆起の推定活断層が存在すると判断される。

2.2. ^{おばやし}小林断層

- ・走向 : 北北西－南南東
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

宝塚市武庫山付近から同市仁川町付近に至る長さ約 3 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

「旧版」においては阪神競馬場の西方に阪急今津線に沿って南北方向の活断層が認定されていたが、先述の甲陽断層や西宮断層のように隆起側において明瞭な撓曲を伴わないこと、さらに崖の形状が浸食崖特有の著しい湾曲を伴うことから、武庫川による浸食の影響を強く受けている可能性があると判断し、推定活断層として表記した。

2.3. ^{いわくらやま}岩倉山南方の断層

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約 4 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

宝塚市光ガ丘付近から西宮市の小天狗山北方まで北北東－南南西に延びる、長さ約 4 km の推定活断層である。本断層は活断層研究会編（1991）において大月断層の一部とされているが、本図では本断層と大月断層の間に明瞭な変位地形が見られなかったため、別の断層とした。

(2) 判読根拠

北西から南東へ流下する比較的多くの小河川に右横ずれ屈曲の可能性のある地形が認められる。

2.4. ^{ごすけばし}五助橋断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 6 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

五助橋断層は、西宮市の小笠峠付近から神戸市灘区の五助谷付近にまで北東－南西方向に延びる長さ約 6 km の推定活断層である。

(2) 判断根拠

北西から南東へ流下する比較的多くの小河川に右横ずれ屈曲の可能性のある地形が認められる。

2 5. ^{さくらがわ}桜川－^{すみのえ}住之江撓曲

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層（地下）

(1) 概要

隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「大阪東北部第 2 版」（中田ほか，2009）から大阪市西区南堀江付近を通り，隣接する 1:25,000 活断層図「大阪西南部（改訂版）」（田力ほか，2020）に至る推定活断層（地下）で，本図には長さ約 0.5 km の区間が記載されている。

(2) 判断根拠

本撓曲は，反射法地震探査（大阪市，1996）による地下構造図及びボーリング調査結果から作成された地質断面図において，更新世の地層の撓曲変形が認められることからその存在が推定されたものである。本断層の主部は，1:25,000活断層図「大阪西南部（改訂版）」（田力ほか，2020）に記載されており，解説については田力（2020）に記載されている。

（名古屋大学教授 鈴木 康弘）

（東京大学地震研究所准教授 石山 達也）

（同志社大学教授 堤 浩之）

（広島大学名誉教授 中田 高）

（東洋大学教授 渡辺 満久）

引用文献

遠藤秀典・渡辺史郎・牧野雅彦・卜部厚志・阿蘇弘生・是石康則・江尻寿延 1996. 兵庫県芦屋市における芦屋川測線の反射法弾性波探査. 地質調査所月報 47: 79-94.

大阪市 1996. 『平成 7 年度地震調査研究交付金 上町断層に関する調査成果報告書』

活断層研究会編 1991. 『新編日本の活断層－分布図と資料－』 東京大学出版会.

- 寒川 旭・杉山雄一 1996. 有馬－高槻構造線活断層系のトレンチ調査. 地震予知連絡会会報 56: 557-565.
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2001. 有馬－高槻断層帯の評価. https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/76_arima-takatsuki.pdf (最終閲覧日: 2024 年 3 月 31 日)
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2004. 上町断層帯の評価. https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/80_uemachi.pdf (最終閲覧日: 2024 年 3 月 31 日)
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2005. 六甲・淡路島断層帯の評価. https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/79_rokko_awaji.pdf (最終閲覧日: 2024 年 3 月 31 日)
- 田力正好・岡田篤正・杉戸信彦・中田 高 2020. 『1:25,000 活断層図「大阪西南部 (改訂版)」』国土地理院.
- 田力正好 2020. 『1:25,000 活断層図 上町断層帯とその周辺「大阪西南部 (改訂版)」解説書.』国土地理院.
- 戸田 茂・川崎 慎治・竹村 恵二・岡田 篤正 1996. 反射法地震探査の断面に見られる有馬－高槻構造線に沿う地溝帯. 地震 第 2 輯 48: 511-520.
- 中田 高・岡田篤正・鈴木康弘・渡辺満久・池田安隆 1996a. 『1:25,000 都市圏活断層図「広根」』国土地理院.
- 中田 高・岡田篤正・鈴木康弘・渡辺満久・池田安隆 1996b. 『1:25,000 都市圏活断層図「大阪西北部」』国土地理院.
- 中田 高・岡田篤正・鈴木康弘・渡辺満久・池田安隆 2009. 『1:25,000 都市圏活断層図「大阪東北部第 2 版」』国土地理院.
- 兵庫県 1996. 『平成 7 年度地震調査研究交付金 六甲断層帯に関する調査成果報告書』
- 兵庫県 2003. 『平成 14 年度地震関係基礎調査交付金 六甲・淡路島断層帯に関する調査成果報告書』
- 渡辺満久・鈴木康弘・中田 高 1996. 『1:25,000 都市圏活断層図「神戸」』国土地理院.
- 渡辺満久・鈴木康弘・岡田篤正 1997. 神戸・芦屋・西宮市街地の活断層と兵庫県南部地震に伴う震災の帯. 地形 18: 223-232.

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/10,000	M18-4, M27-2, M31-1, M34-3, M84-1, M85-1, R601
米軍（モノクロ）	1/40,000	M265, M417, M527, M540
国土地理院（モノクロ）	1/10,000	MKK611, MKK612
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	MKK643X
国土地理院（カラー）	1/10,000	CKK748, CKK7414

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから作成した 1mDEM と，兵庫県が公開しているオープンデータを使用した。



図1 航空レーザ測量データ使用範囲（グレー色塗りつぶし部：データ使用部，赤枠：図郭）塗りつぶし部以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEMないし10mDEM）」を使用した。

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会・第1回全体部会（クロスチェック）	令和5年8月23日(水)
	ビジョンセンター東京八重洲
地域部会（クロスチェック）	令和5年11月5日(日)
	イオンコンパス東京八重洲会議室
第2回委員会・第2回全体部会（クロスチェック）	令和5年12月22日(金)
	ビジョンセンター東京八重洲

- b. 上町断層帯、有馬－高槻断層帯及び六甲・淡路島断層帯とその周辺
「大阪西北部 改訂版」(令和5年度)

図 名	氏 名	所 属
大阪西北部 改訂版	○ 鈴木 康弘	名古屋大学教授
	石山 達也	東京大学地震研究所准教授
	堤 浩之	同志社大学教授
	中田 高	広島大学名誉教授
	渡辺 満久	東洋大学教授

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順。

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305－0811 茨城県つくば市北郷1番
電話：029 (864) 1111 (代表)

5) 引用する場合の記載例

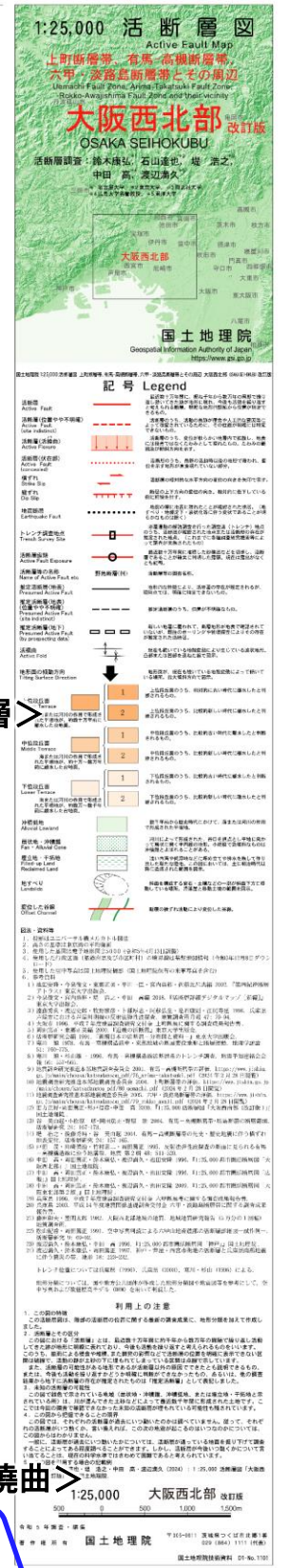
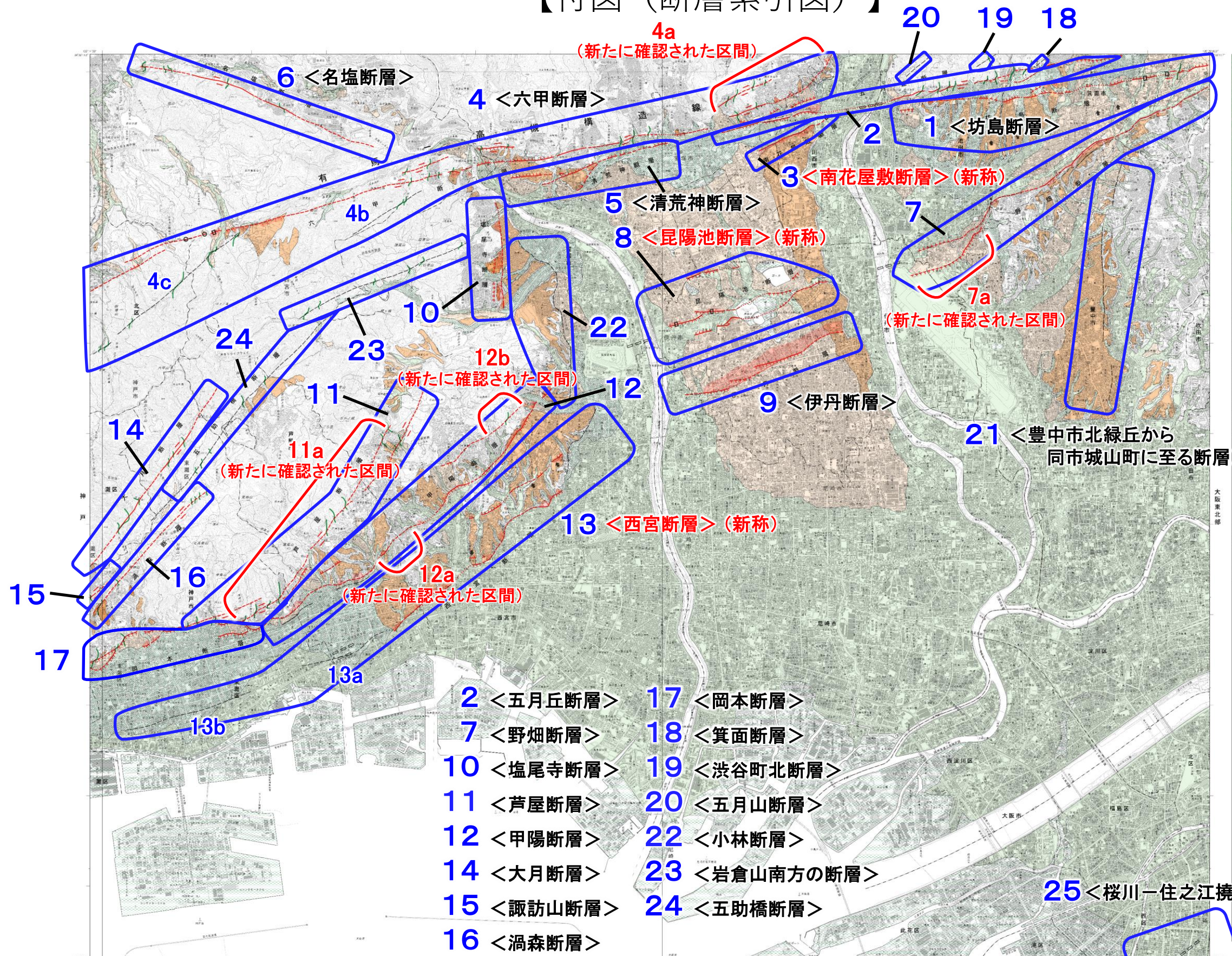
a. 図を引用する場合

鈴木康弘・石山達也・堤 浩之・中田 高・渡辺満久 (2024)：1:25,000 活断層図「大阪西北部 (改訂版)」，国土地理院。

b. 解説書を引用する場合

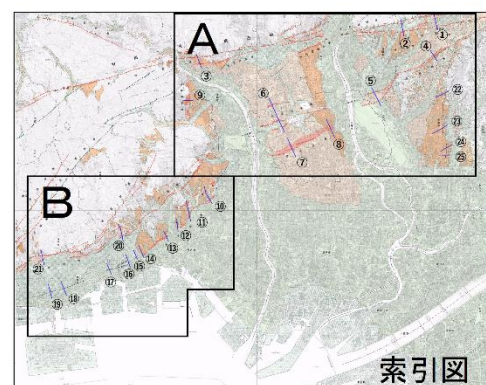
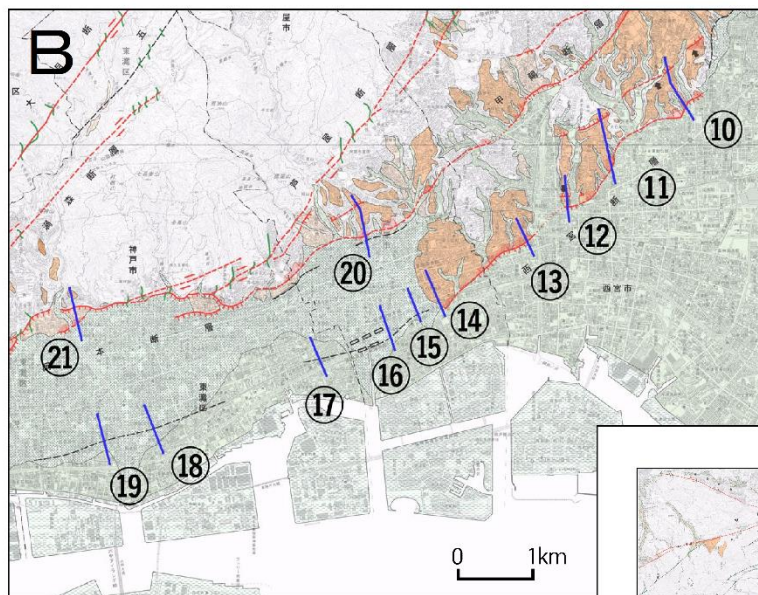
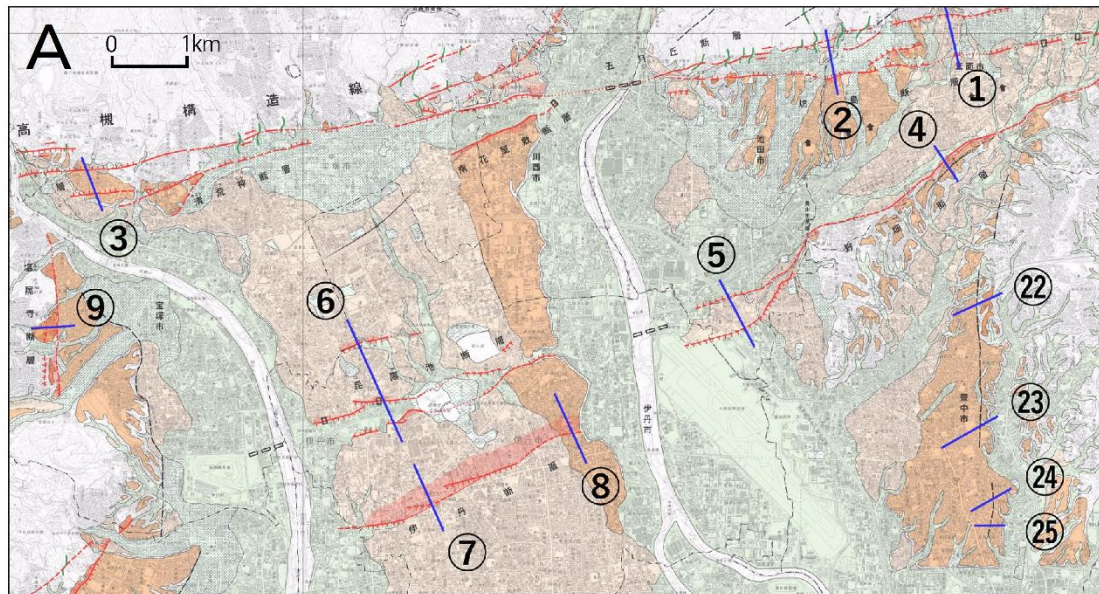
鈴木康弘・石山達也・堤 浩之・中田 高・渡辺満久 (2024)：1:25,000 活断層図 有馬－高槻断層帯、六甲・淡路島断層帯及び上町断層帯とその周辺「大阪西北部 (改訂版)」解説書。国土地理院，31p.

【付図（断層索引図）】

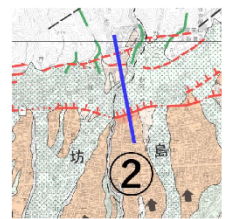
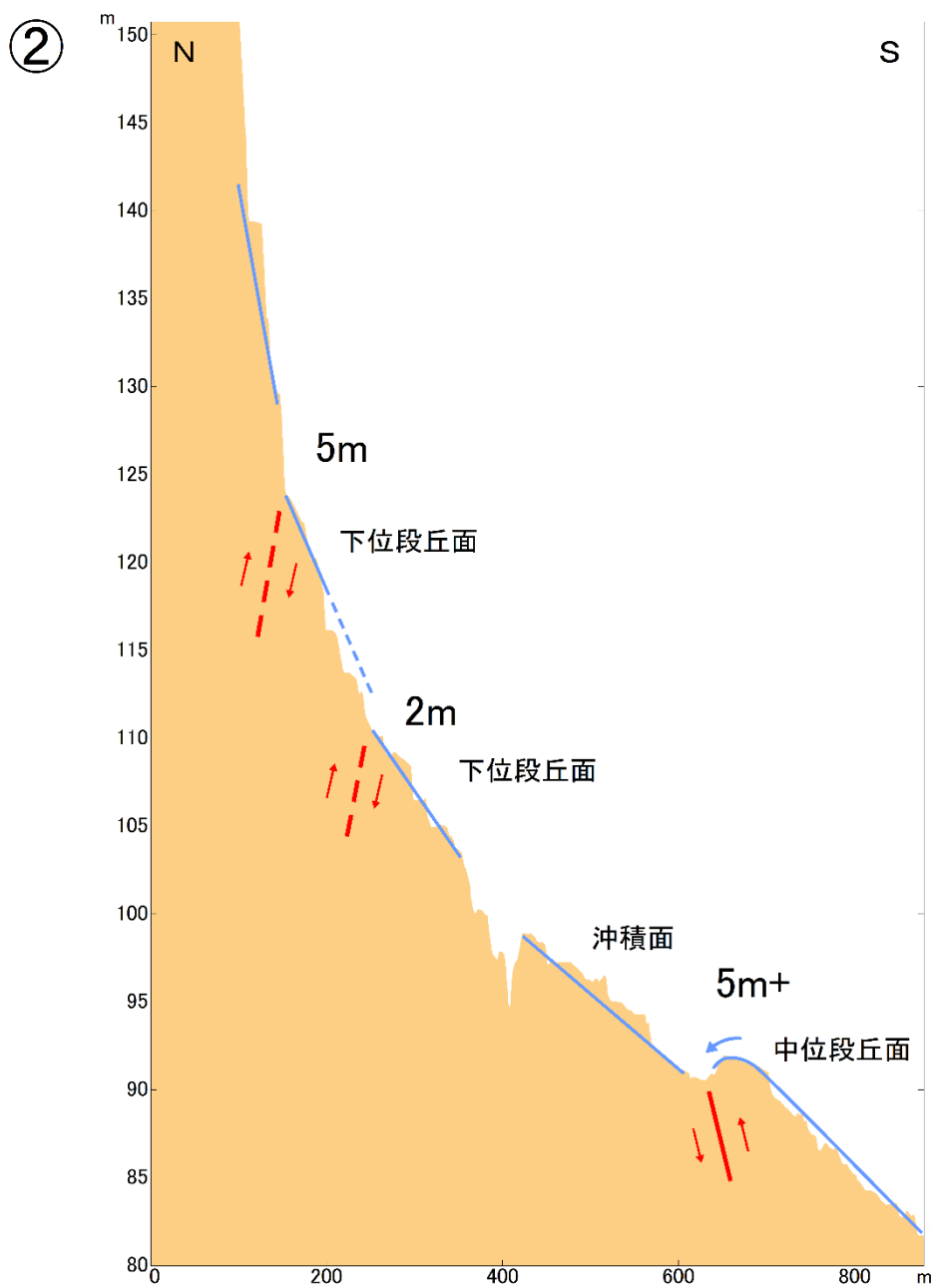
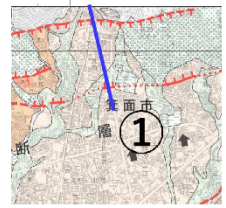
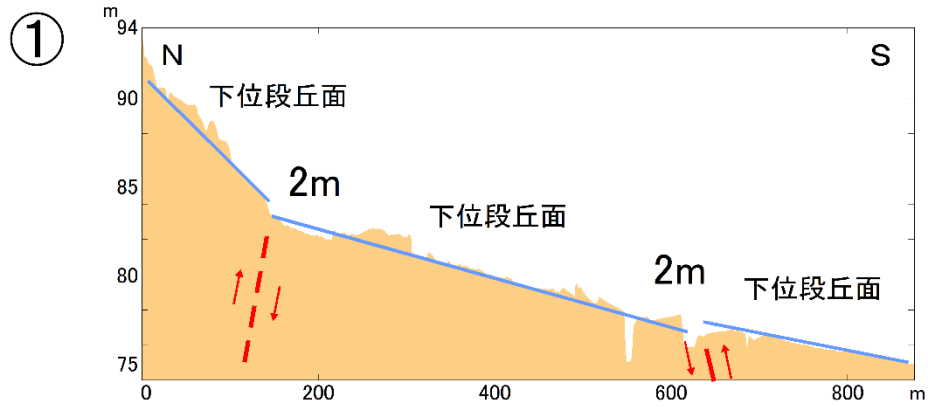


付図 地形断面図

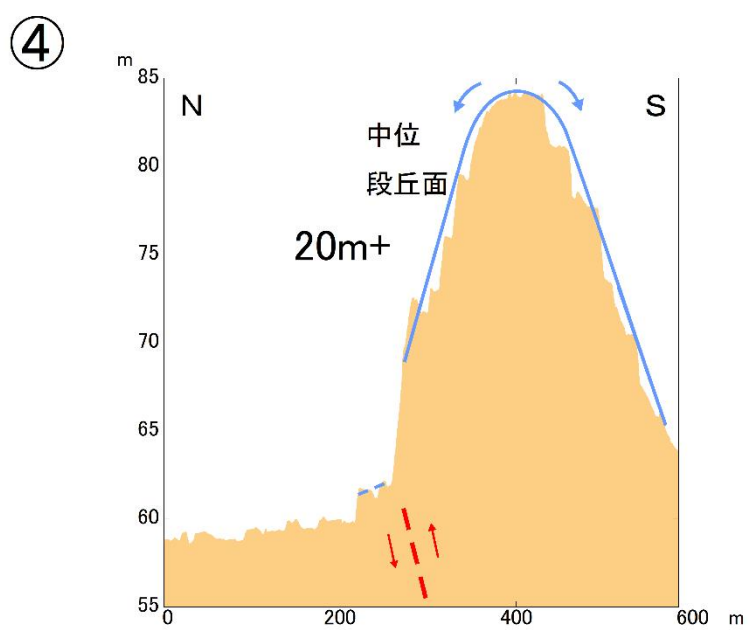
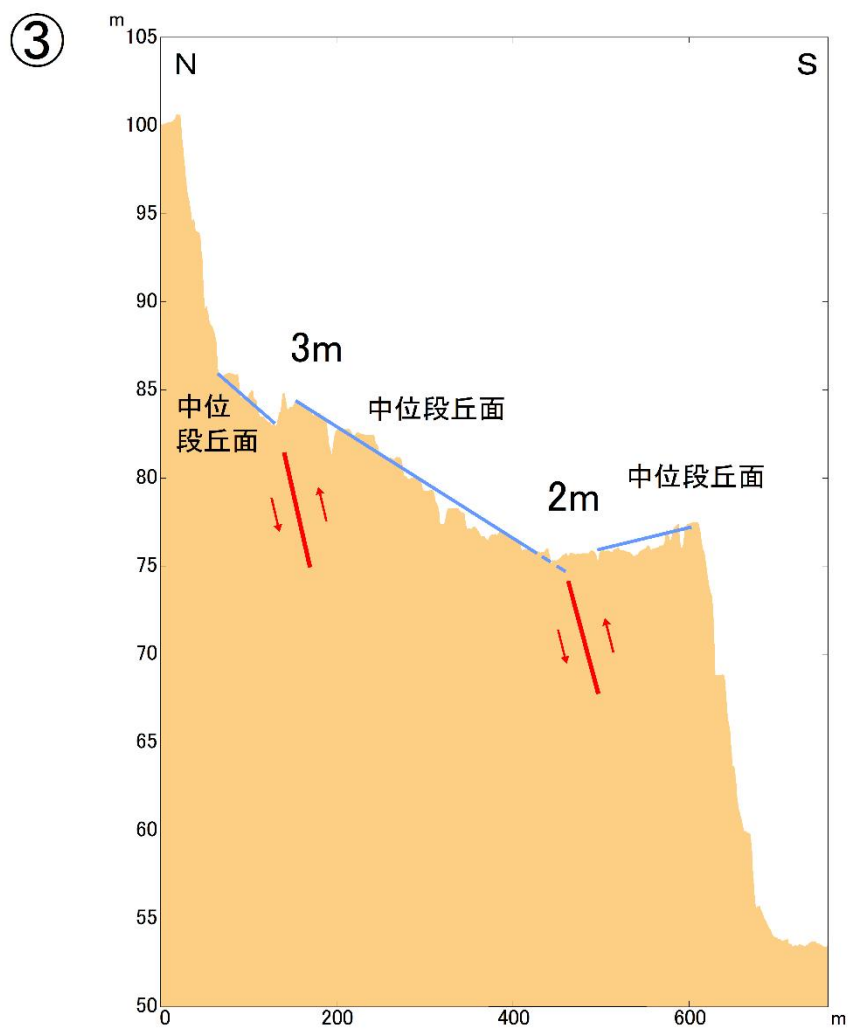
地形断面測線位置図



縦横比 20 倍

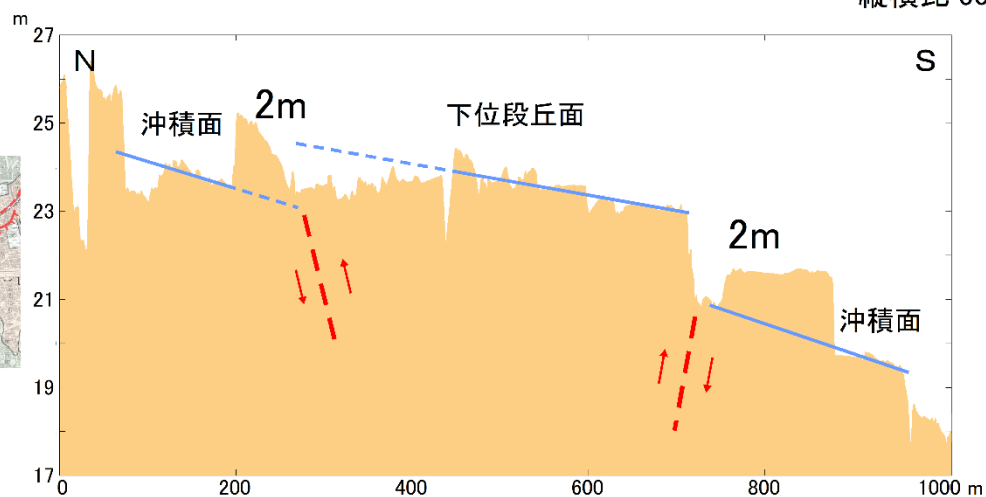


縦横比 20 倍

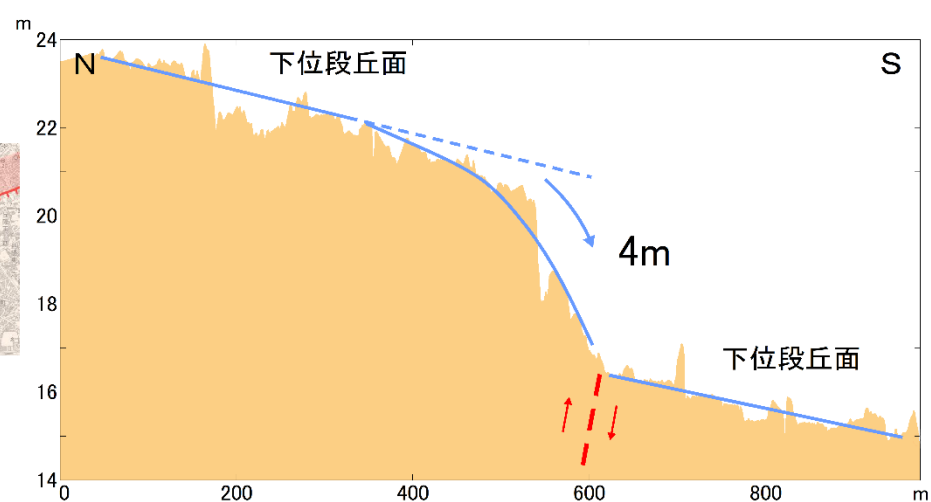
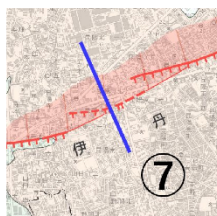


縦横比 50 倍

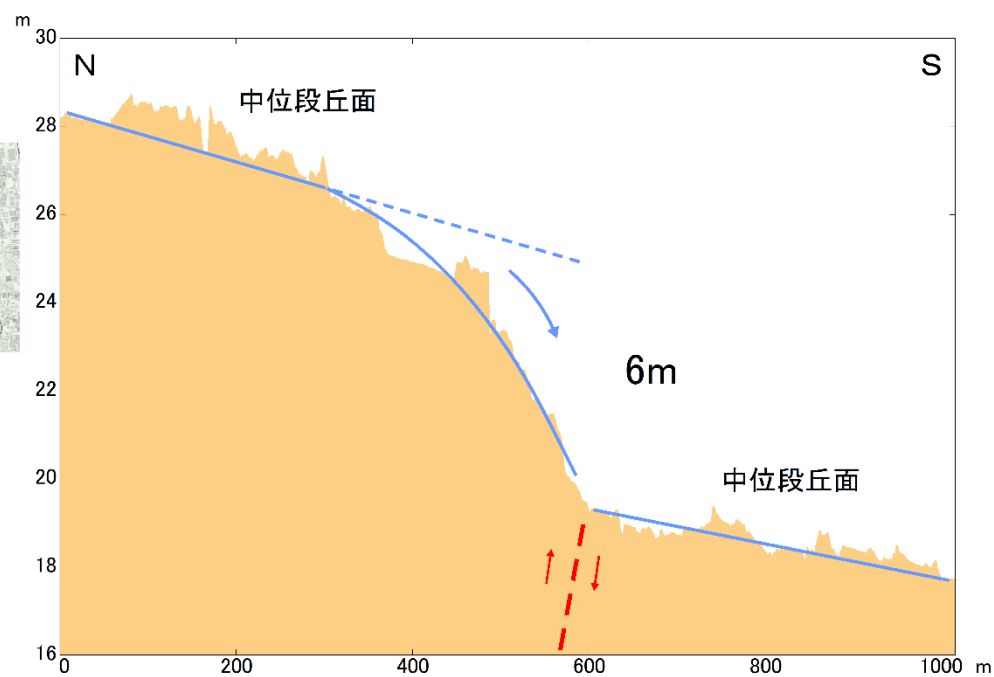
⑤



⑦

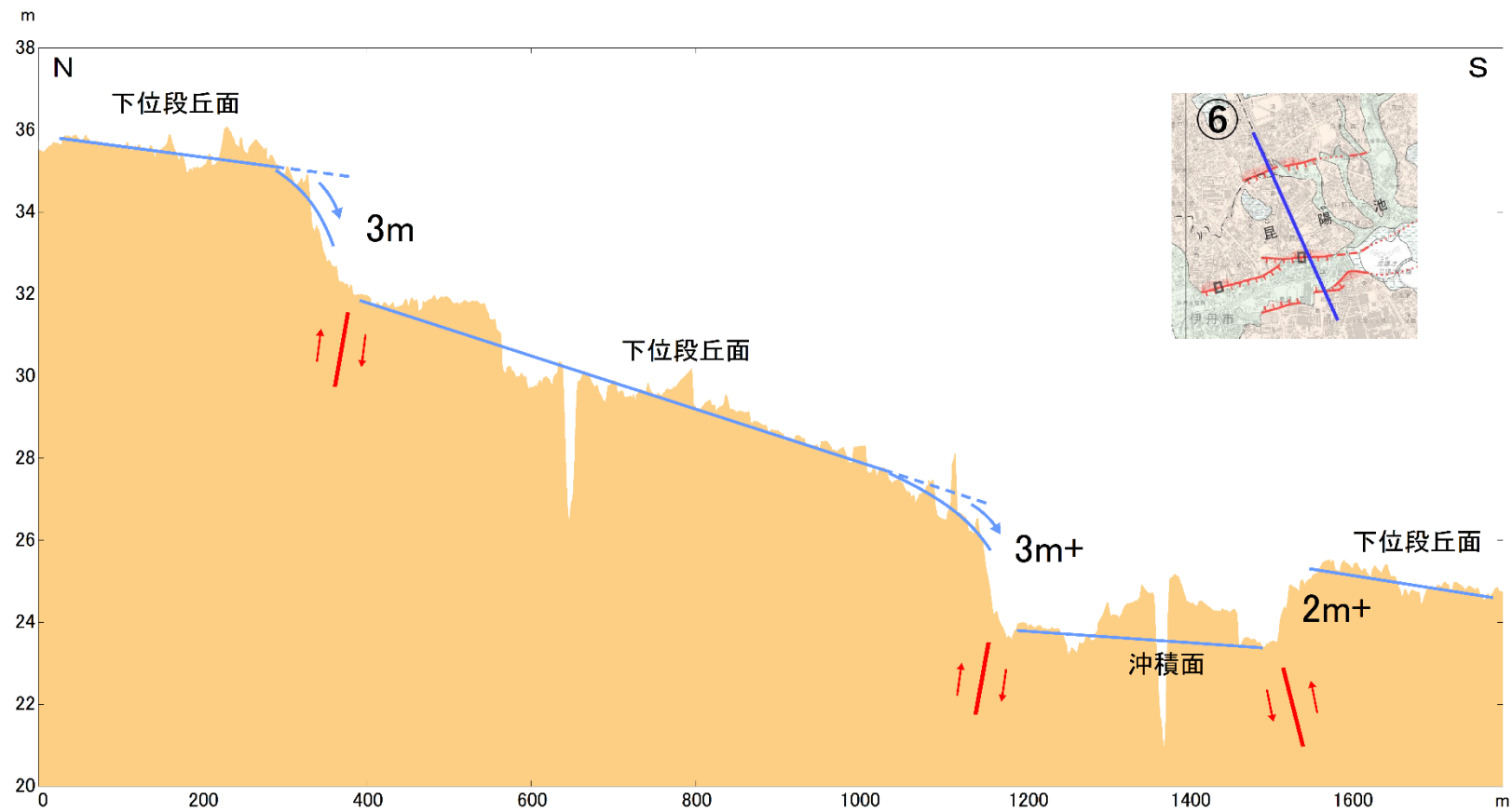


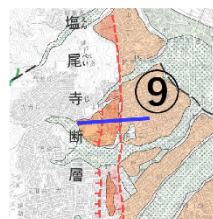
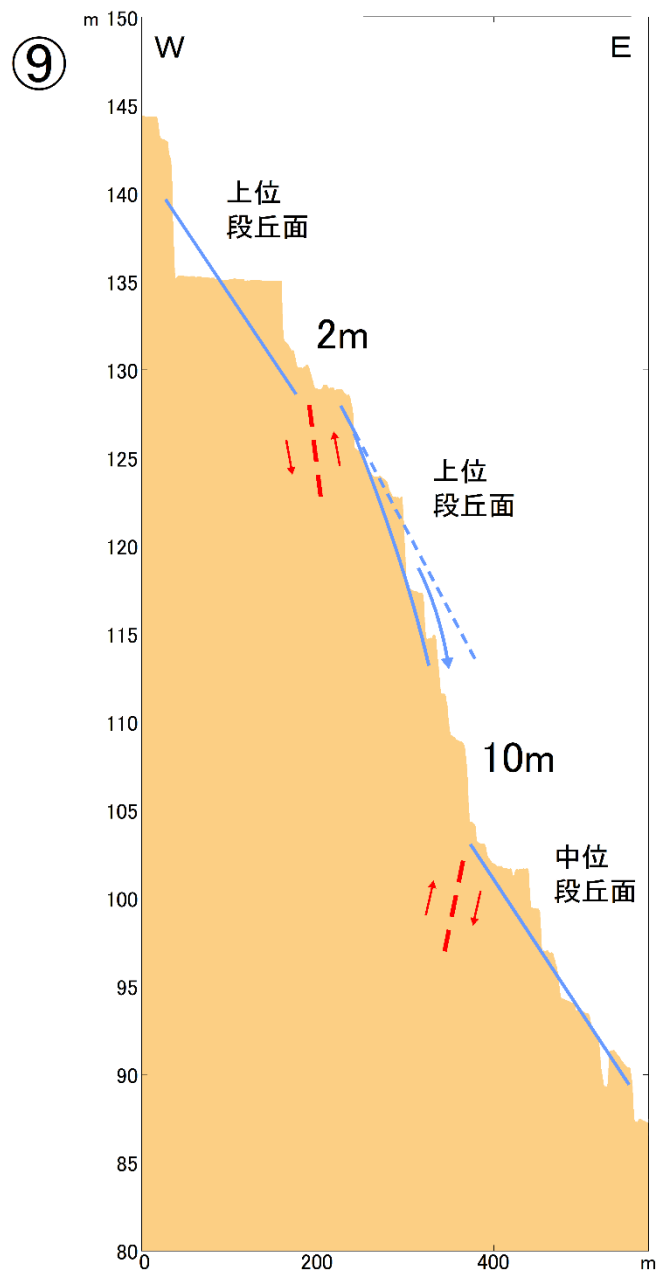
⑧



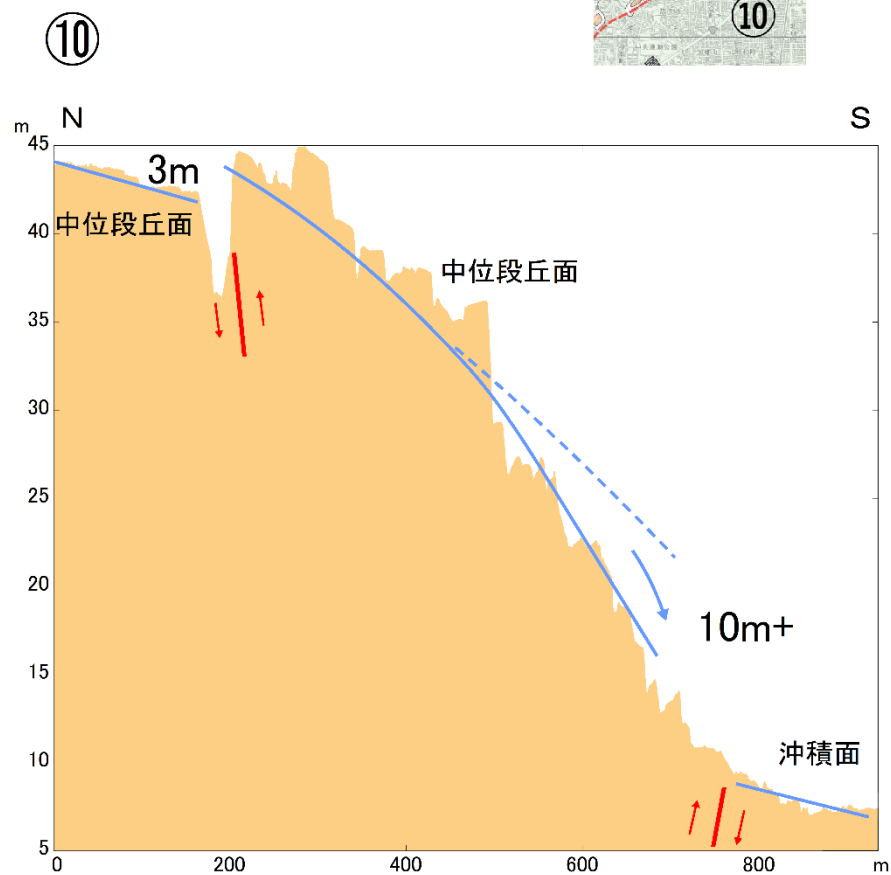
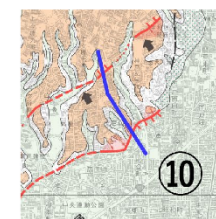
⑥

縦横比 50 倍

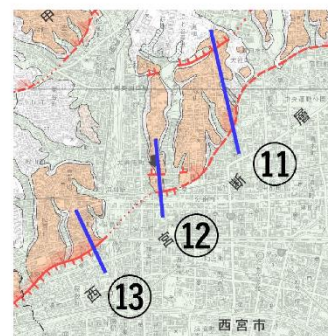
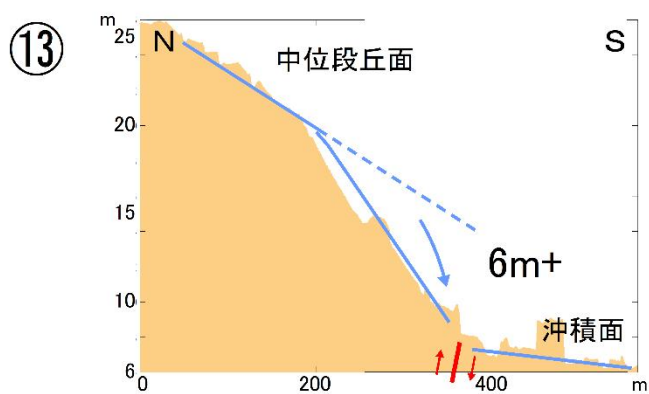
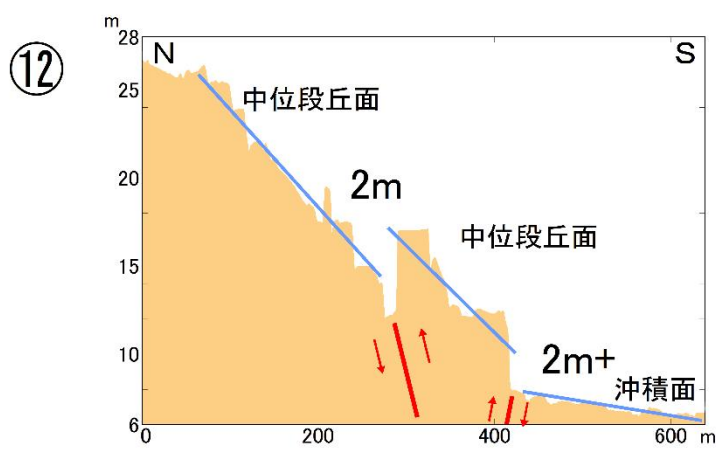
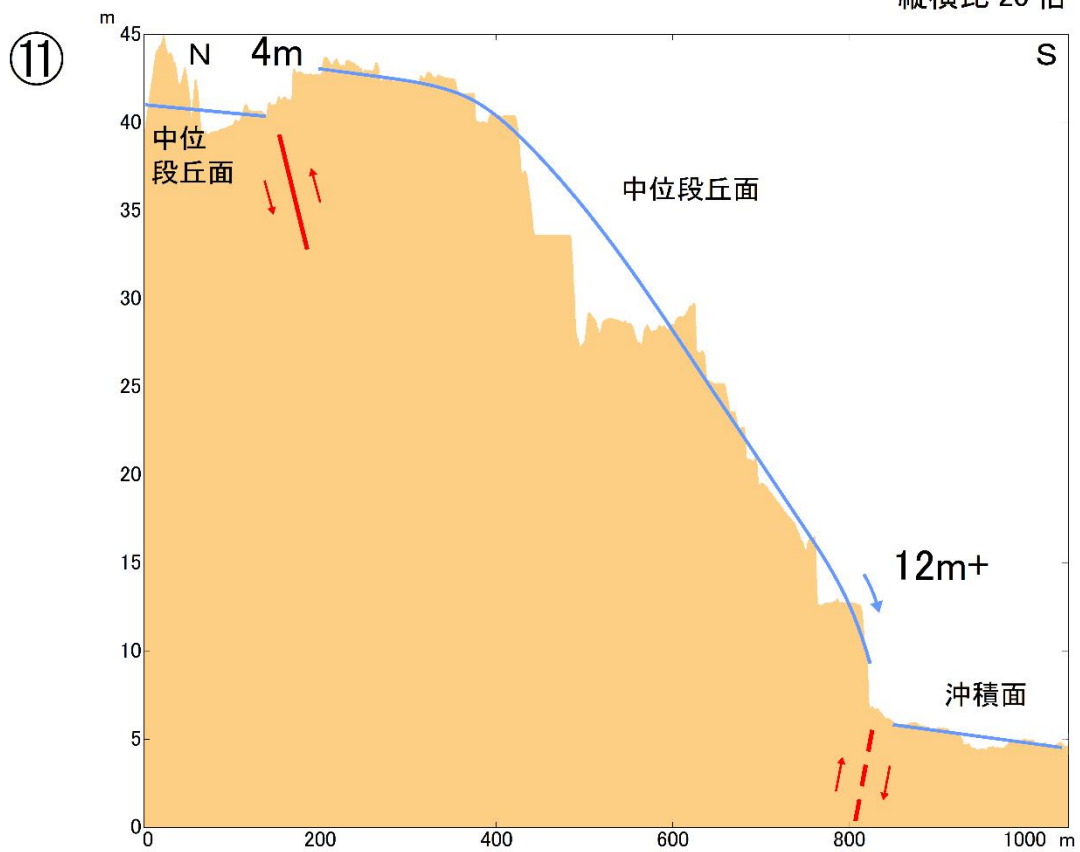


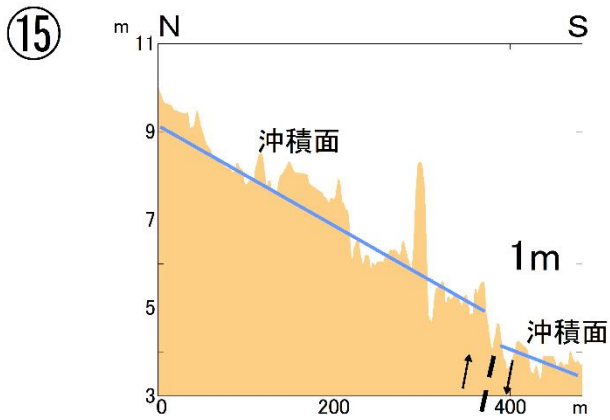
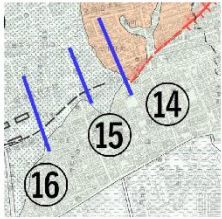
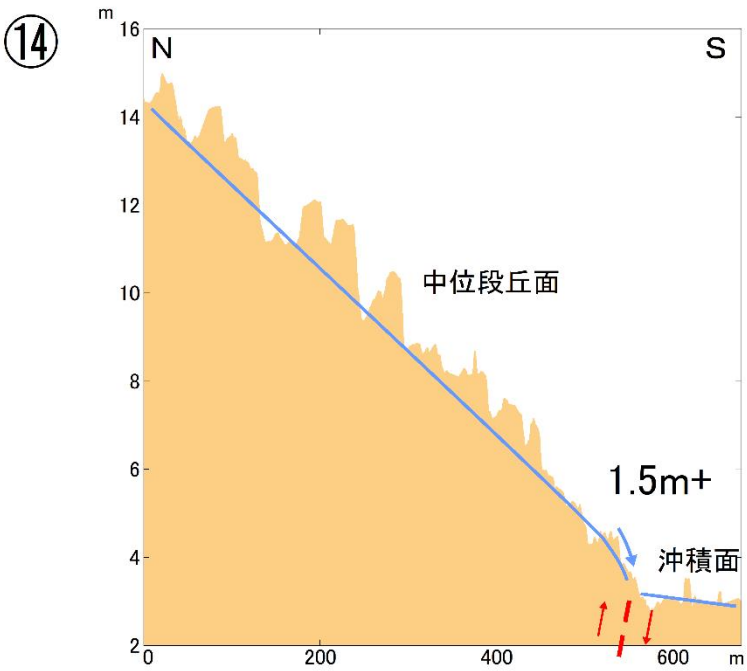


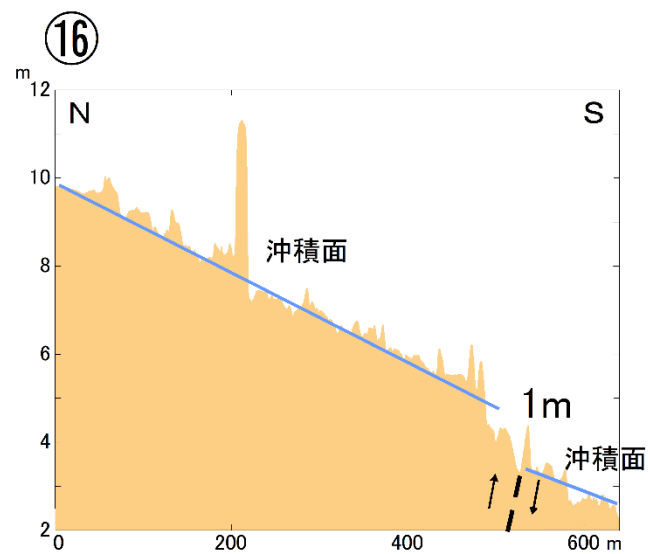
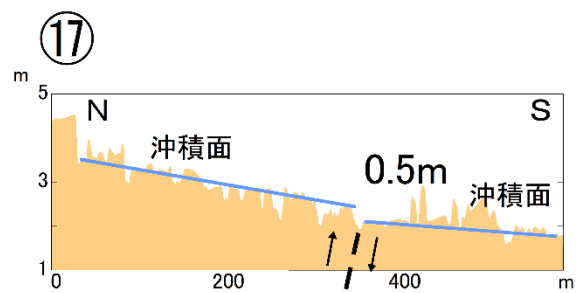
縦横比 20 倍



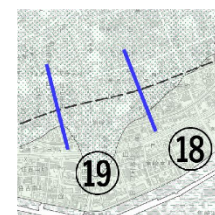
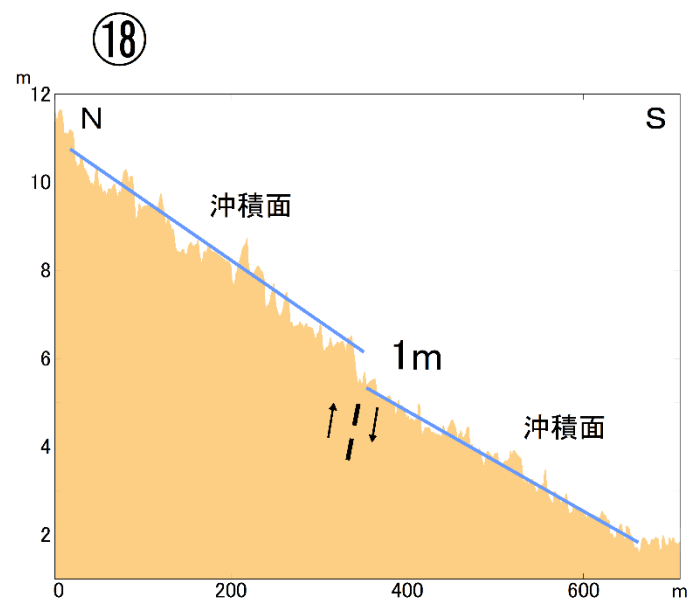
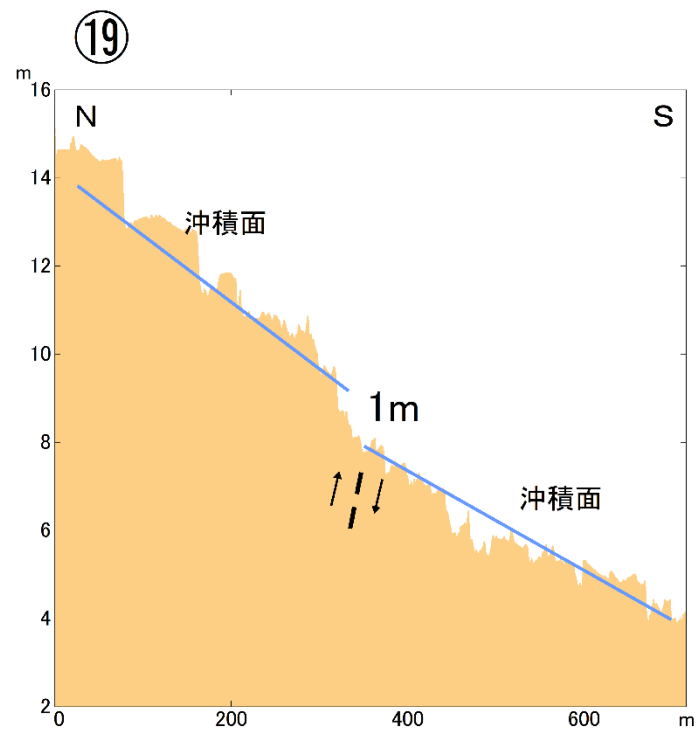
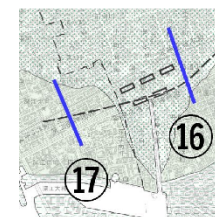
縦横比 20 倍







縦横比 50 倍



縦横比 10 倍

